

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500246
法人名	有限会社 ほほえみ
事業所名	グループホーム微笑の家なかむら
所在地	愛媛県新居浜市中村2丁目4番25号
自己評価作成日	平成26年5月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成26年6月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の症状によって生活スタイルを出来るだけ自立に向けた支援方法を取り入れている。特に帰宅願望が強い利用者には、毎日散歩に出かけ不穏症状の改善に努めている。結果、非常に安定している。継続して取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広々とした平屋建ての事業所の玄関には、利用者の外出時や行事の様子をまとめたアルバムが置いてあり、面会者や利用者は自由に閲覧することができる。利用者の笑顔を大切に考えて職員は支援しており、雑祭日には職員の持ってきた着物を利用者一人ひとりが着て記念撮影をしたり、職員が行事の開催にはアユをその場で焼いて利用者にもふるまったりするなど、楽しみを持って過ごせるよう努めている。入居前からの利用者の趣味を継続してもらうなど、利用者一人ひとりのその人らしさを大切に支援を心がけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム微笑の家なかむら
(ユニット名)	のぞみ
記入者(管理者)	
氏名	田坂 慶子
評価完了日	平成 26 年 5 月 15 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事業所内で常に目に付くような状況で掲示して、安心して介護できるように実践している。 (その人らしさを大切にする温もりのある支援と介護を目指しています。)</p> <p>(外部評価) 「その人らしさを大切にする温もりのある支援と介護を目指しています。」という理念を代表者と一緒に考え作成している。管理者は月1回のユニット会時に理念などを職員と話し合い、共有して実践に繋げている。リビングには毛筆で書かれた理念を掲げており、常に職員は意識してケアを行っている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域での買い物や、散歩などで地域の人々とのふれあいを持っている。又、地域の小学校との交流も積極的に行っている。</p> <p>(外部評価) 踊りや歌などのボランティアの方々や、小学生のふれ合い訪問を積極的に受け入れて交流をしている。散歩や買い物時には地域住民とあいさつや会話を交わし、交流を広げようと努めている。開設時から行っている事業所の夏祭りを、今年は地域住民に声かけして事業所の駐車場で行う予定としており、行事に気軽に参加してもらえよう働きかけながら、地域との関わりが深まるように努めている。</p>	開設4年目を迎え、地域に事業所の存在は認知されてきているが、近隣住宅に住んでいる地域住民は共働きの世帯が多いため日常的な関わりを持ちにくいことが考えられる。これから地域の一員として浸透していくために、事業所行事に地域住民の参加協力を求めるなど、様々なきっかけづくりをして交流を深めることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 認知症に関する相談や、認知症医療疾患センターとの連携も密にしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回開催して、評価やご意見を基に改善に取り組んでいる。	
			(外部評価) 運営推進会議は家族、民生委員、自治会正副会長、市議会議員、市担当者等の参加を得て開催している。会議では事業所の近況報告や取組み、災害時などの対応を報告し、参加者と意見交換をしている。参加者から出された意見は、サービスの向上に活かすよう努めている。職員は会議録を確認し、ユニット会などで必要に応じ話し合いをしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 担当者との意見交換や運営推進会議出席において意見交換して協力関係を構築している。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に毎回参加しており、事業所の現状や取組みを報告し意見をもらうなど、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員は、成年後見制度の利用など親身になって相談に応じ、意見や情報をもらっている。また、利用者の話を傾聴するため、2か月に1回介護相談員を受け入れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修への参加や全体会への報告でお互いの理解を深めて身体拘束しない意義を考えている。	
			(外部評価) 職員は身体拘束等の外部研修に参加し、ユニット会などで報告や話し合いをしながら理解して、身体拘束を行わないケアを実践している。日中、玄関は開放しており、外出願望のある利用者には職員と一緒に付き添ったり見守りをしたりして対応している。また、職員は利用者への声かけなどが言葉での拘束につながっていないか、気をつけて対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修に参加して虐待防止の理解を深め、報告会によりスタッフの情報の共有で細やかに利用者に接している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 利用者家族の思いや、希望に沿って成年後見制度の活用を支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際、細部にわたり説明して同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を玄関に設置して、いつでも誰でも自由に苦情意見を投函できる体制を作っている。又、苦情処理・サービス向上委員会にて改善に努めている。	
			(外部評価) 家族の面会時に、職員から話しかけて利用者の様子を伝え、意見や要望を聞くようにしている。遠方などの家族には、利用者の様子や外出先での写真が掲載されたほほえみ便りと、近況を書いた手紙を同封して送付している。敬老会などの行事の後に家族会を開催しており、事業所での取組みを伝え、意見交換を行っている。また、利用者の日常会話の中から意見を聞き取り、細やかな対応をするよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のユニット会での意見や代表者との会議などで職員の意見を反映する機会を持っている。 (外部評価) 月1回ユニット会があり、職員は管理者等に意見や要望を伝えることができる。管理者は日頃から職員と話すことができ、職員全員が意見や提案を伝えやすいような雰囲気づくりに努めている。また、外部研修の案内を貼ってあるのを見た職員が、希望する研修にできるだけ参加できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 不定期の代表者との意見交換で職員の働きがいのある職場づくりに努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 毎月定期的に研修の案内と参加の声かけをして研鑽に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修に参加することで、他の施設との交流になりネットワークづくりにつながっている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 信頼関係を築くため、ゆっくりと話し合い希望、要望など聞かせていただき生活の安定を築いていく。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族とも連携を持ってお互いに意見交換できる関係づくりをしている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 今必要としているサービスが何か、ご家族や利用者との意見交換で見極めていく努力が必要。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 擬似家族としてお互いに生活を大切にできる関係を目指している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者の思いや家族のきぼう、要望などお互いの関係を大切に支えていく。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みのお友達が来て下さったり、ご自宅に帰って馴染み関係の継続を続けている。 (外部評価) 自宅を見に行きたい利用者など、管理者が月に1回程度一緒に出かけられるよう個別での支援にも対応しており、利用者に安心してもらっている。訪問理美容のサービスも行っているが、馴染みの美容院にも行けるよう支援している。家族の協力を得て、お墓参りに出かけている利用者もおり、なるべく今までの馴染みの人や場所との関係が継続できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日常での会話、生活リズムなど把握して職員が話題の提供をして利用者同士の関係を深めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 長期入院などで退去しても、家族の相談に乗り、復帰に向けた支援をしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎月の定例会にて一人ひとりの生活の様子を報告され、希望など出来るだけ取り入れている。 (外部評価) 日々の会話の中から利用者の思いや希望を聞いて、新たな情報は職員間で共有できるように記録に残し、話し合いをしている。入浴時や居室で職員と1対1になる時に、リラックスして思いを聞くよう心がけている。思いの把握が困難な利用者には、表情やしぐさなどからくみ取り、なるべく意向に沿えるような支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 在宅での生活スタイルを把握しながら、過ごしていただいている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活を利用者個別の対応の方法で接している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月定例会を開催して、利用者の担当者を中心に意見交換して安心して過ごせる計画を作っている。 (外部評価) 日々の会話での利用者の意見や、面会時に家族と話し合ったことを、介護計画に反映できるよう努めている。ユニット会で利用者毎の担当職員が状況や様子を報告し、職員間で話し合い計画作成担当者が介護計画を作成している。モニタリングは3か月に1回行い、状態の変化があった場合にはその都度見直しを行い、現状にあった介護計画になるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ユニット会、申し送り帳、受診記録などを基に、意見交換してけいかくに反映している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の希望を踏まえて、柔軟なサービスの対応に取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアの訪問や、地域の子供さんたちの訪問などや、散歩、ドライブによる地域との交流を持っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 毎月かかりつけ医への受診や診察を設けており、緊急時にも 往診していただける体制になっている。専門医の受診は基本 家族であるが、職員が対応している。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医を継続して受診するこ とができる。月2回、協力医の往診があるため、協力医をか かりつけ医としている利用者も多い。看護職員の配置や訪問 看護師の訪問もあり、日々の健康状態を把握し健康管理をし ており、異常時には速やかに適切な医療が受けられる体制づ くりができています。専門医への受診は、家族や職員が受診介 助を行い、受診内容は家族や職員間で共有できるようにして いる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 利用者の異変に築いた時は、適切な連絡と体制をとれるよう になっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) できるだけ早期に退院できるように、主治医と相談したり、 退院に向けた家族との話し合い等積極的に取り組んでいる。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所ですることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 事業所として家族会にて、終末期の取り組みもしていくと伝 達している。そのために、主治医との連携も密にしている。 家族によっては、病院の選択もされるかもしれませんが。	
			(外部評価) 「看取りに関する指針」を作成しており、事業所としての看 取りの取組みや方針を利用者と家族に説明し、同意し希望し た場合には事業所での看取りを行うようにしている。これま で看取り支援を行った前例はないが、職員への研修を行うな ど受け入れ態勢を整えている。看取り支援は医師や看護師、 家族と職員が協力して、利用者や家族が望む、安心した穏や かな終末期が迎えられるように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルに沿って連絡は出来ているが、緊急時の訓練もいつでもいかせる技術を身につけているが、実践になると不安である。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難誘導や、消火器の使い方など、利用者も一緒に練習している。地域については、代表が自治会長をされて共に緊急時の対策を話している。 (外部評価) 年2回避難訓練を実施しており、夜間の火災を想定した避難訓練や自主的な訓練も実施している。訓練の様子は写真や記録に残し、消防署からのアドバイスを受けており、次回の訓練への課題や反省につなげている。居室から利用者を避難誘導した後は、居室の扉にテープを貼り避難を終えたことが一目で分かるよう工夫をしている。また、事業所は地域の避難場所になっており、緊急連絡網も整備し、備蓄品も用意されている。	地域の防災訓練に参加したり、運営推進会議を利用してさらに地域住民への災害時の協力依頼や一緒に訓練に参加してもらうなど、地域との協力関係を築いていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者個々の人格を尊重している。(呼び方、居室に入る時)又は、個別の話は居室するなど、プライバシーを大切にしている。 (外部評価) 特に入浴や排泄介助時には、大きい声を出さないよう気をつけ、羞恥心に配慮して、さりげない対応をするよう心がけている。利用者の呼び方は、基本的には敬称で呼び、職員同士で注意し合いながら、尊厳や人格を傷つけないような声かけを行っている。玄関に置いてある面会簿は、1枚ずつ記入できる用紙になっており、他の面会者の目に触れることのないよう箱に入れてもらい、個人情報の保護にも努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 馴染みの関係の中で、希望や不満など気軽に言える雰囲気と環境を整えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者個々の生活スタイルを大切に過ごし方をして頂いている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 外出時など本人の希望を取り入れて身だしなみを整えている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の下ごしらえや、準備、片付けなど、出来る範囲でお互いに協力している。	
			(外部評価) ユニット毎に利用者の希望も取り入れながら職員が献立を考え、調理している。利用者には手伝ってもらいながら食事の準備を行い、調査日には職員と談笑しながら調理の下ごしらえを手伝う利用者の様子を見ることができた。職員は利用者とテーブルを囲み同じものを食べており、和やかな食事の時間となっている。事業所の庭の菜園で朝摘みいちごを収穫して食べたり、採れた野菜が食卓にならぶなど、利用者に食の楽しみを感じてもらえるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量と水分量の把握に努め（記録している）健康管理している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後一人ひとりの状況に合わせて口腔清拭している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄表の記録により、個々の排泄パターンを確認しながら支援していく。	
			(外部評価) 紙オムツやパットを使用している利用者もいるが、一人ひとりの排泄パターンを把握し、できるだけ誘導を行いトイレで気持ち良く排泄できるように支援している。紙パンツを使用していた利用者がトイレ誘導などを行うことにより、布パンツに替わった事例もある。残存機能を活かしながら、オムツやパットに頼りすぎないように利用者に合わせて支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事や水分、散歩などで、便秘気味の利用者に対応している。(時に下剤を使っている)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者個々の時間に合わせて、一人ずつゆっくり入浴していただいている。	
			(外部評価) 利用者は2日に1回を基本として、時間帯や頻度など希望に応じて入浴できるよう支援している。脱衣所にはエアコンが設置されており、急激な温度変化にならないよう環境整備をしている。利用者の状態に応じて、2人体制で職員が介助を行うこともあり、安全に安心した入浴支援ができています。また、入浴剤を入れて香りを楽しみながら、ゆっくりと入浴できるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者によっては、休息をしながら夜間の安眠を支援している。ゆっくり眠られる方は、夕食後談笑してから眠られる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者個々の投薬一覧表があり、誤薬も含めて確実に確認体制をとって服薬支援している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常生活の中で趣味趣向を生かした楽しみや、散歩やドライブで気分転換している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の天候を見ながら散歩などしている。又、希望によって自分の家に帰れるように支援している。	
			(外部評価) 利用者が季節を感じられるように、毎月、桜や紫陽花などの花見に、車いすの利用者も一緒に出かけている。外出時には弁当を用意し、外出先の野外で広げて食べるなど、利用者が気分転換を図れるよう工夫している。また、日頃から事業所の近くの商店に買い物に行ったり、散歩に出かけるなど利用者の希望に応じた外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分でお買い物に出かける時、お金を持って好きなものを買われている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者個々の希望に合わせて、電話や手紙、荷物の送りなど支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の花を飾ったり、行事の準備などを一緒にして楽しく過ごしている。 (外部評価) 広々とした陽当たりの良いリビングのオープンキッチンから、利用者の様子を見渡すことができる。利用者は畳スペースなど、思い思いの場所でゆっくりくつろぐことができる。湿温度計を目につく場所に置き、職員は室温に配慮しながら利用者が快適に過ごせるよう配慮している。事業所内には花が飾られ、季節を感じるができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 仲間同士で談笑できる場所の提供や、場合によってソファでくつろいだり出来るようしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族の写真や、使い慣れたものを置いて安心するお部屋にしている。 (外部評価) 居室はベッドと大きいクローゼットが備え付けられている。居室に使い慣れた馴染みの家具や仏壇を持ち込んでいる利用者もおり、家具類を好みの位置に配置し、利用者に合わせて使いやすく居心地の良い空間となっている。クローゼットに衣類や荷物を収納することができ、すっきりと明るく開放感のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) てすりの設置やバリアフリーによる転倒防止など安全な生活ができるようにしている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500246
法人名	有限会社 ほほえみ
事業所名	グループホーム微笑の家なかむら
所在地	愛媛県新居浜市中村2丁目4番25号
自己評価作成日	平成 26 年 5 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 6 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者個々の生活スタイルを尊重して、常にその人らしさを発揮できる体制づくりをしている。(散歩・買い物等)
又、利用者と職員がいっしょになって食事の関わりを持つようにして、利用者の生活歴を大切にすることで、不安な行動がなくなり常に穏やかな生活になっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広々とした平屋建ての事業所の玄関には、利用者の外出時や行事の様子の写真をまとめたアルバムが置いてあり、面会者や利用者は自由に閲覧することができる。利用者の笑顔を大切に考えて職員は支援しており、雑祭日には職員の持ってきた着物を利用者一人ひとりが着て記念撮影をしたり、職員が行事の開催にはアユをその場で焼いて利用者にもふるまったりするなど、楽しみを持って過ごせるよう努めている。入居前からの利用者の趣味を継続してもらうなど、利用者一人ひとりのその人らしさを大切に支援を心がけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム微笑の家なかむら

(ユニット名) ちとせ

記入者(管理者)

氏名 田坂 慶子

評価完了日 平成 26 年 5 月 15 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「その人らしさ大切にする温もりのある支援と介護を目指しています」この理念に沿って職員一人一人が実践できるように日頃より説明している。	
			(外部評価) 「その人らしさを大切にする温もりのある支援と介護を目指しています。」という理念を代表者と一緒に考え作成している。管理者は月1回のユニット会時に理念などを職員と話し合い、共有して実践に繋げている。リビングには毛筆で書かれた理念を掲げており、常に職員は意識してケアを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域での買い物や、散歩、小学校との交流や地方祭での取り組みが地域での一体となっている。	
			(外部評価) 踊りや歌などのボランティアの方々や、小学生のふれ合い訪問を積極的に受け入れて交流をしている。散歩や買い物時には地域住民とあいさつや会話を交わし、交流を広げようと努めている。開設時から行っている事業所の夏祭りを、今年は地域住民に声かけして事業所の駐車場で行う予定としており、行事に気軽に参加してもらえるよう働きかけながら、地域との関わりが深まるように努めている。	開設4年目を迎え、地域に事業所の存在は認知されてきているが、近隣住宅に住んでいる地域住民は共働きの世帯が多いため日常的な関わりを持ちにくいことが考えられる。これから地域の一員として浸透していくために、事業所行事に地域住民の参加協力を求めるなど、様々なきっかけづくりをして交流を深めることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 認知症に関する相談や、認知症医療疾患センターとの連携も密にしている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 年間6回の開催で、事業所の評価やご意見をいただき改善に努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議は家族、民生委員、自治会正副会長、市議会議員、市担当者等の参加を得て開催している。会議では事業所の近況報告や取組み、災害時などの対応を報告し、参加者と意見交換をしている。参加者から出された意見は、サービスの向上に活かすよう努めている。職員は会議録を確認し、ユニット会などで必要に応じ話し合いをしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 担当者との意見交換や、必要に応じて市の窓口での意見交換で積極的に協力関係を持っている。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に毎回参加しており、事業所の現状や取組みを報告し意見をもらうなど、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員は、成年後見制度の利用など親身になって相談に応じ、意見や情報をもらっている。また、利用者の話を傾聴するため、2か月に1回介護相談員を受け入れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修への参加や、全体会での報告によりお互いの理解を深め身体拘束しないケアの実践に取り組んでいる。	
			(外部評価) 職員は身体拘束等の外部研修に参加し、ユニット会などで報告や話し合いをしながら理解して、身体拘束を行わないケアを実践している。日中、玄関は開放しており、外出願望のある利用者には職員と一緒に付き添ったり見守りをしたりして対応している。また、職員は利用者への声かけなどが言葉での拘束につながっていないか、気をつけて対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修に参加して、趣旨を理解して職員の共通の問題として防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 利用者家族の思いや希望に沿って活用を支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際、細部にわたり説明して同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置していつでも、だれでも自由に投函できるようにしている。内容については、サービス向上委員会にて改善に努めている。	
			(外部評価) 家族の面会時に、職員から話しかけて利用者の様子を伝え、意見や要望を聞くようにしている。遠方などの家族には、利用者の様子や外出先での写真が掲載されたほほえみ便りと、近況を書いた手紙を同封して送付している。敬老会などの行事の後に家族会を開催しており、事業所での取組みを伝え、意見交換を行っている。また、利用者の日常会話の中から意見を聞き取り、細やかな対応をするよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ユニット会での意見を代表との話し合いで反映している。 (外部評価) 月1回ユニット会があり、職員は管理者等に意見や要望を伝えることができる。管理者は日頃から職員と話すことができ、職員全員が意見や提案を伝えやすいような雰囲気づくりに努めている。また、外部研修の案内を貼ってあるのを見た職員が、希望する研修にできるだけ参加できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表との会議で職員からの意見や、職場環境に取り組んでもらっている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 定期的な研修の参加と研修案内を掲示して職員のスキルアップを目指している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修に参加することで他施設との交流になり、ネットワーク作りになっている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) まず信頼関係を築くため、日頃より会話をしたりして困っていることや不安なことを聴く取組みをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族より何でも相談できる雰囲気を作り、面会に来たときにはそれとなく声かけしている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前の聞き取りを大切にして、その希望が実践されているか確認しながら進めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者が自分から行動できるように支援しながら関係作りをしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族との関係を尊重しながら生活していただいている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) だれでも・いつでも気軽に来ていただける環境づくりをしている。 (外部評価) 自宅を見に行きたい利用者など、管理者が月に1回程度一緒に出かけられるよう個別での支援にも対応しており、利用者に安心してもらっている。訪問理美容のサービスも行っているが、馴染みの美容院にも行けるよう支援している。家族の協力を得て、お墓参りに出かけている利用者もおり、なるべく今までの馴染みの人や場所との関係が継続できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者全員で関わりを持った生活をしている。トラブルが起きても職員のかかわりで場の雰囲気を変えて孤立しないように対応している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 長期入院などで退去されても、家族の相談に乗り今後のことをともに考えている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりの会話の中から昔の生活や思いでを聞き出来るだけ希望に沿うよう努めている。 (外部評価) 日々の会話の中から利用者の思いや希望を聞いて、新たな情報は職員間で共有できるように記録に残し、話し合いをしている。入浴時や居室で職員と1対1になる時に、リラックスして思いを聞くよう心がけている。思いの把握が困難な利用者には、表情やしぐさなどからくみ取り、なるべく意向に沿えるような支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 情報収集して入居後の生活環境が大きく変化しないよう務めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 体調の変化や心理状態を観察しながら一人ひとりの生活状態を確認している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者個々の状態を観察しながら、家族の要望や希望を踏まえて計画を立案している。	
			(外部評価) 日々の会話での利用者の意見や、面会時に家族と話し合ったことを、介護計画に反映できるよう努めている。ユニット会で利用者毎の担当職員が状況や様子を報告し、職員間で話し合い計画作成担当者が介護計画を作成している。モニタリングは3か月に1回行い、状態の変化があった場合にはその都度見直しを行い、現状にあった介護計画になるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日頃の気付きや様子観察から個別の記録に反映している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の希望に沿って柔軟なサービスの対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 散歩や買い物、地域の小学生との交流やボランティアの訪問によって暮らしの楽しみにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 月2回の定期往診にて信頼関係を築いている。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医を継続して受診する ことができる。月2回、協力医の往診があるため、協力医をか かりつけ医としている利用者も多い。看護職員の配置や訪問 看護師の訪問もあり、日々の健康状態を把握し健康管理をし ており、異常時には速やかに適切な医療が受けられる体制づ くりができています。専門医への受診は、家族や職員が受診介 助を行い、受診内容は家族や職員間で共有できるようにして いる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 訪問看護時の情報交換を密にして適切な医療体制を構築して いる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時積極的な治療で早期の退院を関係者と話し合いしてき ている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所のできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した時の対応について、家族との話し合いや主治医と の連携を行い対応する体制を整えている。	
			(外部評価) 「看取りに関する指針」を作成しており、事業所としての看 取りの取組みや方針を利用者と家族に説明し、同意し希望し た場合には事業所での看取りを行うようにしている。これま で看取り支援を行った前例はないが、職員への研修を行うな ど受け入れ態勢を整えている。看取り支援は医師や看護師、 家族と職員が協力して、利用者や家族が望む、安心した穏や かな終末期が迎えられるように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会や講習会に参加することにより知識を身に付けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難誘導の訓練を行いあわせて確実な避難誘導できるようにしている。利用者も訓練に参加して消火器の扱いを訓練している。 (外部評価) 年2回避難訓練を実施しており、夜間の火災を想定した避難訓練や自主的な訓練も実施している。訓練の様子は写真や記録に残し、消防署からのアドバイスを受けており、次回の訓練への課題や反省につなげている。居室から利用者を避難誘導した後は、居室の扉にテープを貼り避難を終えたことが一目で分かるよう工夫をしている。また、事業所は地域の避難場所になっており、緊急連絡網も整備し、備蓄品も用意されている。	地域の防災訓練に参加したり、運営推進会議を利用してさらに地域住民への災害時の協力依頼や一緒に訓練に参加してもらうなど、地域との協力関係を築いていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 声かけの仕方や対応に気を配り個人の人格を尊重した対応を心掛けている。 (外部評価) 特に入浴や排泄介助時には、大きい声を出さないよう気をつけ、羞恥心に配慮して、さりげない対応をするよう心がけている。利用者の呼び方は、基本的には敬称で呼び、職員同士で注意し合いながら、尊厳や人格を傷つけないような声かけを行っている。玄関に置いてある面会簿は、1枚ずつ記入できる用紙になっており、他の面会者の目に触れることのないよう箱に入れてもらい、個人情報の保護にも努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 出来るだけ本人の意思を尊重して、自分の思いを言える雰囲気を作るようしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの生活に合わせて無理なく過ごせる支援をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 外出など本人の希望に沿った衣服を着ていただくよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の準備や片付けなど出来る範囲で一緒にしている。メニューによっては利用者主体の時もある。	
			(外部評価) ユニット毎に利用者の希望も取り入れながら職員が献立を考え、調理している。利用者にはできることは手伝ってもらいながら食事の準備を行い、調査日には職員と談笑しながら調理の下ごしらえを手伝う利用者の様子を見ることができた。職員は利用者とテーブルを囲み同じものを食べており、和やかな食事の時間となっている。事業所の庭の菜園で朝摘みいちごを収穫して食べたり、採れた野菜が食卓にならぶなど、利用者に食の楽しみを感じてもらえるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量や水分量を記録して一人ひとりの状況を把握しながら健康管理している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後歯磨きをしている。又、口腔内については異常が見られた時歯科医の受診をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) おむつをしている利用者も定期的なトイレ誘導している。 (おむつを減らす)	
			(外部評価) 紙オムツやパットを使用している利用者もいるが、一人ひとりの排泄パターンを把握し、できるだけ誘導を行いトイレで気持ち良く排泄できるように支援している。紙パンツを使用していた利用者がトイレ誘導などを行うことにより、布パンツに替わった事例もある。残存機能を活かしながら、オムツやパットに頼りすぎないように利用者に合わせて支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食時の工夫や飲み物などで調整している。(牛乳等)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者個々の時間に合わせてゆっくり入浴している。	
			(外部評価) 利用者は2日に1回を基本として、時間帯や頻度など希望に応じて入浴できるよう支援している。脱衣所にはエアコンが設置されており、急激な温度変化にならないよう環境整備をしている。利用者の状態に応じて、2人体制で職員が介助を行うこともあり、安全に安心した入浴支援ができています。また、入浴剤を入れて香りを楽しみながら、ゆっくりと入浴できるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者個々によって安眠のため、昼寝をしたりして安心して眠れる支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者個々の投薬一覧表に基づいて確認しており確実な服薬支援ができています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常生活の中で趣味を生かして楽しみを持ったり、散歩やドライブで気分転換している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎日出来るだけ散歩や、外気浴を行なっている。ドライブでは少し遠出をしている。	
			(外部評価) 利用者が季節を感じられるように、毎月、桜や紫陽花などの花見に、車いすの利用者も一緒に出かけている。外出時には弁当を用意し、外出先の野外で広げて食べるなど、利用者が気分転換を図れるよう工夫している。また、日頃から事業所の近くの商店に買い物に行ったり、散歩に出かけるなど利用者の希望に応じた外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分でお買い物に出かける時、おかねを持って好きな物を買われている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者個々の希望に合わせて電話や手紙ができるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 清潔感あるリビング・居室を心がけている。行事の写真など掲示して楽しく暮らせる雰囲気を作っている。	
			(外部評価) 広々とした陽当たりの良いリビングのオープンキッチンから、利用者の様子を見渡すことができる。利用者は畳スペースなど、思い思いの場所でゆっくりくつろぐことができる。湿温度計を目につく場所に置き、職員は室温に配慮しながら利用者が快適に過ごせるよう配慮している。事業所内には花が飾られ、季節を感じる事ができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 仲間同士で談笑できる場所や、ソファをつかったりして思い思いに楽しさを生み出している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族の写真や、仏壇をおいて自分のお部屋として安心して生活している。	
			(外部評価) 居室はベッドと大きいクローゼットが備え付けられている。居室に使い慣れた馴染みの家具や仏壇を持ち込んでいる利用者もおり、家具類を好みの位置に配置し、利用者に合わせて使いやすく居心地の良い空間となっている。クローゼットに衣類や荷物を収納することができ、すっきりと明るく開放感のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 朝の掃除や、洗濯など自分でできることを一緒にしていただき自立生活の支援をしている。	